

# Oh!Smile

2014年 5・6月号

## 祭 だ よ ♪

### 伝統のお祭り

「まつり」という言葉は「祀る」の名詞形で、本来は神を祀ること、またその儀式を指します。古代においては祭祀を司る者と政治を司る者が一致した祭政一致の体制であったため、政治のことを政(まつりごと)と呼ばれています。「祭」の本来の意味は慰霊であり、お盆も先祖崇拜のお祭りです。

さて、日本全国にはおびただしい祭りがあり、神社のものに限定しても、日本全国に30万もの祭りが開催されています。その目的は五穀豊穣を願う、豊作を感謝する、豊漁や航海の安全を祈る、また疫病神の退散や穢れ(けがれ)払いなどが主です。その目的により、開催時期や行事の内容は多種多様なものになっています。

一方、宗教的なルーツがあるものの、風流を重視した祭り芸能がメイン行事になっているものも多々あります。もともと祭りは神様を喜ばせるものであり、それを華やかに面白くと趣向を凝らしているうちに人々の楽しみとしての性格が強くなっていました。中でも最大の人出を誇るのが青森のねぶた祭り。巨大な山車が運行し、参加者や観客は合わせて350万人を越えています。

今年3月に文化庁は山車や屋台が街を巡る全国18府県、32件の祭りをユネスコ無形文化遺産の候補として一括提案すると発表しました。2015年の政府間委員会で登録を目指します。提案名は「山・鉾・屋台行事」、重要な年中行事として世代間で受け継がれ、人々の絆を強めている日本の山鉾文化の多様性と豊かさをアピールしたい、と説明しています。



### 「祭り」用語

#### ○「ご神体」と「神霊」

神が宿るとされる具体的な物が「ご神体」、そこに宿る抽象的な概念である神を「ご神霊」という。

#### ○例祭

年に1回、もしくは2回、祭神にちなんだ日(縁日)に行われる。神社にとって最も重要なお祭り。

#### ○神輿(みこし)

神霊を運ぶための「輿」。神社のミニチュアのような形が一般的。

#### ○鳳輦(ほうれん)

鳳凰の飾りを付けた輿のことで天皇の乗用だった。天神祭りや神田祭りのように「鳳輦」で神霊を移動させる祭りもある。

#### ○山車(だし)

引くように車輪を付けた、種々の飾り物が付いたもの。

#### ○屋台

小さい家に乗せた台の意味。踊り屋台、囃子屋台、人形屋台など。

#### ○だんじり

主に関西で、山車や屋台のこと。

#### ○鉾(ぼこ)

両刃の剣に長い柄をつけた武器。山車に立てたものという場合もある。

#### ○舞と踊り

舞は回転運動が主、踊りは上下運動を主にしたものといわれる。

#### ○囃子(はやし)

楽器では笛と鉦(かね)・太鼓が多く、声は「掛け声」「囃子詞」と呼ばれる。



### 三大祭り

#### ☆ 日本三大祭り

「三都」の代表的な祭りという意味をもち、江戸時代から言われてきました。

#### ○ 大阪・天神祭

(7月24日宵宮・25日本宮)

大阪天満宮の祭りであり、菅原道真の没後に鎮座されたのが起源です(949年)。メインイベントは水の都にふさわしい「水上祭」、「船渡御(ふなとぎよ)」が行われ、舞台船では囃子が鳴り響き、大川(旧淀川)には100隻あまりが行き交います。天神様にちなんだ「紅梅」の花火など、奉納花火が上がります。

#### ○ 京都・祇園祭(7月1日~末日)

発祥は疫病が流行した平安初期、災厄除去のために行われた祇園御霊会(ごりようえ)であり、970年から毎年実施されるようになりました。祇園という名は釈迦が説法を行ったというインドの「祇園精舎(しようじや)」に由来しています。祇園社は明治以降、八坂神社と呼ばれるようになります。山鉾巡行には山鉾というものはありません。松を立てたものが山、鉾は武器の「矛」、悪霊を退散させるためのものです。

#### ○ 東京・神田祭と山王祭

(5月中旬・6月中旬)

日枝神社(ひえじんじや)の「山王祭」、神田神社の「神田祭」は行列が江戸城内に入ることが許され、「天下祭」と呼ばれました。1861年から幕府の命により、交互に隔年で行われるようになりました。神田祭では約100基もの各氏子町会が神輿が神社に宮入参拝。山王祭は、日枝神社を出発し、都内中心部を約500人の行列が練り歩きます。よって、日本三大祭りも隔年で変わることになりました。

## ☆ 京都三大祭り

○ 葵祭・路頭の儀 (5月15日)  
平安京以前の神様が上賀茂神社と下賀茂神社にお出ましになっていたので、そこに朝廷からの使いが御祭文と御幣物を持って挨拶に行くとい う儀式です。よって、神様の乗る神輿は使わず、勅使の牛車その代わりとなります。

○ 祇園祭・山鉾巡行 (7月17日)

○ 時代祭行列 (10月22日)  
祭神である桓武天皇と孝明天皇が鳳輦に乗って京都市内を巡行されるので、1200年の歴史の各場面で歴代の天皇にお仕えした人々が、それ に付き従って一 緒に行列するということ です。最後に祭神である両帝の鳳輦が登場し、平安神宮に戻っていきます。

## ☆ 東北三大祭り

○ 青森・ねぶた (8月2日〜7日)

内部に明かりを入れた巨大な山車が運行し、日本最大規模の祭りです。特定の神社の祭礼はなく、年中行事が発展したものです。「ねぶた」の語源は「眠た」が有力説、「睡魔」は魔物と信じられていて、その睡魔を川や海に流す行事が「眠り流し」なのです。いっぽう弘前では「ねぶた」と呼ばれ、武者絵が描かれている扇形の灯籠が主体になっています。

○ 秋田・竿燈 (かんとう)

(8月3日〜6日)

竿燈全体を稲穂、連なる提灯を米俵に見立て、額・腰・肩などにのせ、豊作を祈るお祭りです。

○ 宮城仙台・七夕 (8月6日〜8日)

市内各地の至るところに大小3,000本と言われる飾りつけがなされ、七夕一色となります。同時に開催される山形・花笠まつりを合わせ、「東北四大祭り」と提唱されています。

## ☆ 三大けんか祭り

○ 福島・飯坂けんか祭り

(10月第一土曜日を中心に3日間)

五穀豊穡を神に感謝し、氏子崇敬者の隆昌を祈願するお祭りです。お互いの神輿の宮入を邪魔し合う、勇ましさがあります。

○ 愛媛・新居浜太鼓祭り

(10月16日〜18日)

50台以上の絢爛豪華な太鼓台と呼ばれる山車が練り歩き、騒げば騒ぐほど神様は喜ぶとして、大音響を発し、ぶつかり合います。

○ 佐賀・伊万里トントン祭り

(10月22日〜24日)

荒神輿と団車が組み合ったまま川に落ちたあと、上陸の早さを競う祭りです。

## ☆ 三大盆踊り

○ 徳島・阿波踊り

(8月12日〜15日)

盆踊りの代表格。阿波踊りのグループを「連(れん)」と呼びますが、参加連は1,000組、参加者数は10万人になると言われています。

○ 岐阜・郡上(ぐじょう)おどり

(8月13日〜16日)

群上節を演奏する囃子の一団が乗る屋台を中心に自由に輪をつくり、時計回りに周回しながら踊る。明け方まで夜通し踊り続けます。

○ 秋田・西馬音内(にしもない)盆踊り

(8月16日〜18日)

囃し方の掛け声とともに盆踊りがはじまり、始めは子供たちの踊りで、夜が更けるとともに輪が大きくなり、しだいに熱をおびた大人の世界になっていきます。



## ☆ 三大裸祭り

○ 岐阜・飛騨古川の起こし太鼓

(4月19・20日)

太鼓の上の両側に男がまたがり、交互に太鼓を鳴らし、この太鼓にめがけて小さい太鼓が突入するという荒々しさがありません。

○ 岡山・西大寺の会陽(えよう)

(2月第三土曜日)

本堂の御福窓から1本2対の宝木(しんぎ)が投下され、その宝木を手に任王門の外に一着で着いた者がその年の福男になるそうです。

○ 大分・豊後高田の若宮八幡裸祭り

(11月中旬の金曜日から日曜日)

豊作を感謝する秋季の例祭。神輿のかつぎ手には陸組と川組があり、神輿を担いで桂川に入り、浮き沈みしながら掛け声を上げ、数隻のお供船に導かれつつ川を渡ります。

## ☆ 三大太鼓祭り

○ 秋田・綴子(つづれこ)太鼓祭

(7月14・15日)

大太鼓をはじめ、出陣行列、獅子踊り、奴踊などの一連の行事が繰り広げられます。現在の一連の太鼓は直径3.71mあり、ギネスブック世界一の認定を受けました。

○ 岩手・盛岡さんさ踊り

(8月1〜4日)

「サツコラチヨイワッセ」という独特のかけ声と共に踊り子が優雅に舞い、太鼓が打ち鳴らされます。「日本一の太鼓パレード」との呼び声も高く、その数は1万個を越えているそうです。

○ 沖縄・エイサー祭り

祖先の霊を送迎するため、若者たちが歌と囃子に合わせ、踊りながら地区の道を練り歩きます。エイサーの由来は浄土宗系の念仏歌に挟まれる囃子の一つ「エイサー、エイサー、ヒヤルガエイサー」から来ていると言われています。

## 編集後記

「祭り」と聞けば、心が躍ります。子供の頃は夏祭り、秋祭りに友達と連れ立って楽しんで思い出がたくさんあります。祭りは日本の文化そのものです。その地方、その土地を知るには祭りに参加する、または見物する、多く肌で感じることができます。だいぶ前に、一人で徳島の阿波おどりを見に行ったらとがあります。駅を降りたところ、街中が踊り、踊り、踊り一色。興奮した記憶が鮮明に残っています。逆に、祭りのあとの静けさ、寂しさ、むなしさも同時に感じました。祭りは日本の心、心底から沸き立つものが存在し、その迫力、背筋が伸びます。日本はおもしろい！すごいなあ！多くを味わってみたい！せっかくです。日本をもっと知りましょう！これが日本の祭りですよ！

(YASU)

## 浪速フード株式会社

〒570-0003 守口市大日町3-32-11

TEL 06-4252-7770

FAX 06-6904-2610

E-MAIL smile@naniwaf.co.jp

HP http://www.naniwaf.co.jp

※「Oh!smile」への、ご要望・お問合せは上記にご連絡ください。